

《沖縄・普天間基地の即時・無条件撤去を》

「ご町内のみなさん。日本共産党の〇〇支部(後援会)です。ただ今より、日本共産党の政策をお話しさせていただきます。しばらくの間、「ご協力をお願い致します。」

みなさん。沖縄では25日、普天間基地の早期閉鎖・返還を求めて、9万人を超える県民が参加して集会が開かれました。米軍基地の「県内たらいまわし」に反対する超党派の県民大会は史上初めてのこと、県知事をはじめ県内41市町村すべての市町村長が参加しました。去る十八日には、「移転」先として名前があがっている鹿児島県の徳之島でも、島民の6割が参加する集会が開かれています。「もう基地はいらない」「ただちに撤去を」との沖縄の人々の声は、もう後戻りすることがないほどに広がっています。

私たち日本共産党も、沖縄の人々と連帯し、「普天間基地は無条件に撤去せよ」と運動をすすめています。25日の沖縄の集会には、志位和夫委員長や市田忠義書記局長も参加しました。みなさん、沖縄の人々と心をつなげて、基地撤去の声を大きくひろげていこうではありませんか。

民主党は、昨年の総選挙で、普天間基地は県外、国外に移設するとの約束をしました。にも関わらず、アメリカの圧力に屈し、その約束を反故(ほご)にし、県内外に移設先探しをおこなうという行動にでています。しかし、どの地域でも自治体ぐるみの強い反対と怒りの声があきこぼり、「移転」先探しは完全に袋小路に陥っています。

鳩山首相は、「沖縄の人々の思いを大切に」と言いますが、それならばもはや「無条件撤去」以外に打開の道はありません。鳩山首相がやるべきことは、アメリカに対して沖縄県民の確固とした思いを伝え、撤去を強く求めることではないでしょうか。

日本共産党は、沖縄の人々の願いに沿って政治をさらに前にすすめるため、日米両国政府に言うべきことを堂々と主張してきました。

21日には、アメリカのルース駐日大使に会談を求め、沖縄の人々の思いと日本共産党の立場を正面から伝えました。「もはや沖縄県内もとより、日本国内どこにも『地元合意』が得られる場所はない」「解決の唯一の道は、無条件撤去しかない」と迫りました。一部のマスコミは、この会談をとりあげ「鳩山首相も共産党の行動を参考にしたらどうか」と報じましたが、こうした行動をとっているのは政党では日本共産党だけです。

日本共産党の志位委員長は、つづけて鳩山首相とも会談し、「無条件撤去という歴史的な決断をすべきだ」「首相がその立場に立つならば、日本共産党は党をあげて応援する」と強く迫りました。

みなさん。普天間基地のアメリカ海兵隊にしても、全国各地に駐留している米軍にしても、日本の安全と国民を守るために存在してはなりません。アメリカの軍事的な世界戦略が目的です。日本共産党は、普天間基地の無条件撤去のためにひきつづきみなさんと力を合わせるとともに、問題の元凶となっている安保条約を解消し、真の日米友好関係を築くために、全力をあげる決意です。

最後に、日本共産党が発行しております「しんぶん赤旗」のご購読をお願い申し上げます、ご当地でのお話しを終わらせていただきます。

「ご協力ありがとうございます。」